

「雄勝地域におけるナラ類集団枯損被害に対する取り組み」

秋田県雄勝地域振興局農林部 主任 小林 勝

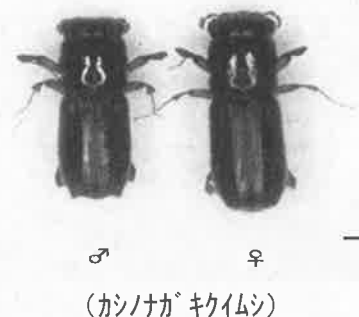
1 はじめに

平成18年3月に雄勝地域の行政機関や林業関係団体等で構成された「雄勝地域ナラ類集団枯損被害対策協議会」(以下、協議会)が設立され、これまでに官民が連携して様々な活動を行ってきたので、その活動状況などについて報告する。

2 研究方法

(1) ナラ類集団枯損被害とは

- ① 6月下旬から8月ころにかけ、カシノナガキクイムシ(以下、カシナガ)が健全なナラ類の幹に集団で穿孔して内部に侵入。
- ② カシナガに付着しているナラ菌が幹内部に持ち込まれ、ナラ菌が全体に広がり、通水が阻害され衰弱。
- ③ やがて枯死。



(2) 雄勝地域とは

秋田県の南の玄関口、湯沢市・羽後町・東成瀬村の1市1町1村を指し、総面積は122,504ha、森林面積は94,291haで森林率は77%となっている。民有林面積は54,760haでその内スギを主体とする人工林面積は25,706haで人工林率は47%となっている。

(3) 協議会の主な活動状況など

平成18年、当時山形県などで猛威を振るい、秋田県境付近まで被害が及んでいるナラ枯れ被害について、北上する被害を防止するための方法を調査・協議し、雄勝地域の広葉樹林を健全な森林に誘導する方策を探ることを目的に協議会が設立された。

協議会は現在8名で構成され、その内訳は、会長が雄勝広域森林組合長、副会長が湯沢市長、委員が羽後町長・東成瀬村長・秋田森林管理署湯沢支署長・雄勝地域振興局農林部長・秋田県森林技術センター森林環境部長・北日本索道株式会社代表取締役となっている。

① 平成18年度の活動状況

ア リーフレットの作成及び配布

雄勝地域の住民にナラ枯れ被害とはどのようなものかを知ってもらい、ナラ枯れ被害の早期発見への協力を呼びかける内容のリーフレットを1万枚作成し、山形県と接している旧雄勝町の全戸や羽後町の全戸などに配布した。



イ 広葉樹材移入状況調査

本調査は、ナラ枯れ被害材が県外からキノコ栽培用のほだ木として移入される状況が考えられるため、しいたけ生産者や素材生産業者など37者を対象にして実施した。23者から回答があり、少量ではあったがナラ枯れ被害が発生している山形県から購入している事例が確認されたため、動向を見守ることにした。

ウ 『ナラ枯れ被害対策セミナー』の開催

平成19年2月に『ナラ枯れ被害対策セミナー』を開催した。

基調講演として、森林総合研究所の主任研究員から「カシノナガキクイムシの生態とナラ類集団枯死」と題して、また秋田県森林技術センターの主任研究員からは「秋田県における戦略的防除対策」と題して報告いただいた。

このほか、活動報告として由利地域振興局の担当者から「由利地域におけるナラ枯れ被害の発生と対応状況」について、また協議会でも、協議会設立に至った経緯や活動状況について報告した。

当日は、林業関係者や行政関係者など約200名の参加があり、参加者からは大径木ナラ材の利用者への助成制度創設などの要望が出され、ナラ枯れ被害に対する関心の高さが伺われた。

② 平成19年度の活動状況

ア パネルなどの展示

湯沢市内で開催された『第130回秋田県種苗交換会』で、ナラ枯れ被害に関するパネルなどを展示し、早期発見への協力を呼びかけた。

イ ナラ材を利用した試作品家具の製作

ナラ材利用推進のPR活動に使用する試作品家具（テーブル1台、椅子4種5脚）の製作を湯沢市の家具製造会社「秋田木工株式会社」に依頼した。

「秋田木工株式会社」は、“日本で唯一の曲木家具ブランド”として約100年にわたり曲木家具を作り続けている会社である。雄勝地域内のナラ類を伐採して試作品家具を製作しようとしたが、曲木に利用するには5ヶ月ほどの自然乾燥が必要だった。そのため、このときは地域のナラ材を利用することは断念し、会社の在庫で試作品家具を製作した。



(テーブル)



(椅子)

③ 平成20年度の活動状況

ア ナラ枯れ被害の発見

10月下旬に「湯沢市上院内地区でナラが枯れている」との情報が秋田森林管理署湯沢支署に入った。それを受け、協議会で11月上旬に現地調査を実施したところ、ミズナラの枯損木3本から多くの穿孔痕とフラスを確認した。

その枯損木から材片と虫を採取し、採取した虫の鑑定を森林総合研究所に依頼した結果、カシナガと鑑定され、現地調査の状況と合わせ“県内2例目のナラ枯れ被害”と判断された。

イ 試作品家具の展示

湯沢市内で開催された『湯沢・雄勝地域森林シンポジウム』において、19年度に製作した試作品家具を展示し、ナラ類の利用促進のPR活動を行った。

④ 平成21年度の活動状況

ア 被害木への対応

20年度の被害木周辺を調査し、新たな枯損木5本を発見した。その枯損木に薬剤を噴霧し、カシナガの脱出を防止した。

また、地域住民などからナラ枯れ情報が数多く寄せられ、現地調査するなどして対応した。



(薬剤の噴霧状況)

イ 一斉調査への協力

秋田県が由利地域と雄勝地域を対象にして一斉調査（ヘリからの空中探査及び地上調査）を実施したが、その調査に作業員を派遣するなどして協力した。

ウ リーフレットの作成及び配布

雄勝地域でのナラ枯れ被害発生の周知や、ナラ類の利活用を呼びかける内容のリーフレットを2万5千枚作成し、雄勝地域の全戸に配布した。

3 考察

平成18年度に秋田県内で初めてにかほ市において確認されたナラ枯れ被害は、平成20年度は湯沢市、平成21年度には東成瀬村や秋田市などでも確認され、被害区域は急速に拡大している。

現在把握している雄勝地域の被害本数は、湯沢市の278本（民有林内175本、国有林内103本）と東成瀬村の3本（民有林のみ）で雄勝地域全体では281本となっている。

ナラ枯れ被害は、高樹齢で大径木なものほど被害を受けやすいとされている。

かつて、里山広葉樹林は薪炭材などに利用されることで若返ってきたが、ライフスタイルの変化などであまり利用されなくなり、若返る手段を失ってしまった。

雄勝地域の広葉樹林も、市町村森林整備計画で標準伐期齢とされている25年生以上のものがほとんどである。そのため、ナラ枯れ被害の拡大防止には若返らせることが重要となるが、協議会では薪炭材などに替わる新たな利用方法として、次のようなことを考えている。

(1) ペレット製造施設への供給

東成瀬村は、平成19年度にバイオマスタウン構想を公表し、木質バイオマスの活用システムの構築を第一の柱と位置付け、ペレット製造施設の導入を中心とした検討を重ねてきている。

ペレットの原料としては、伐採後搬出されずに放置されている大量の林地残材や公共工事の施工に伴い発生する支障木などを見込んでいるため、この構想が実現された場合、村内外で若返りのために伐採されるナラ類も利用してもらうよう働きかける。

(2) チップボイラーの燃料

試作品家具の製作を依頼した「秋田木工株式会社」では工場で稼働させているチップボイラーの燃料に重油や工場から出る端材を使用しているが、今後若返りのために伐採されるナラ類をチップボイラーの燃料用として引き受けてもよいと話している。

「秋田木工」のような会社を、より多く掘り起こしていく必要がある。

上記の利用方法を実現させるためには、森林所有者の理解や協力、広葉樹材の供給体制の確立など地域が一体となって取り組む必要がある。

協議会は、今後も地域の先頭に立って普及啓発活動を行い、ナラ枯れ被害の拡大防止に努めていく。